

組織目標評価報告書（平成28年度）

部局名：

理学部

部局長名：

吉野雄二

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>○教育の実施体制について 教員のインセンティブ向上のために教員に対する表彰制度(教育貢献賞)を継続実施する。 ピアレビューまたは副担任制度等を継続実施し、質の高い教育の維持に努める。 入学試験に関する広報活動を積極的に行い、優秀な学生の確保に努める。 ○教育方法・内容について 最先端研究を反映させた学部教育を検討し、教育の改善に努める。 また、電子書籍を活用した授業および双方向授業のあり方について検討し、実施する。 グローバル化に即応した教育方法の可能性について検討または試行する。 フロンティアサイエンティストコースを維持し、優秀な学生に対して早い時期から最先端の研究に触れる機会を与える。 ○教育的成果(学習の成果、卒業後の進路)について 学部教育の質保証のため、カリキュラムや授業内容の検討を引き続き行う。 とくに、学部共通科目の設定、卒業予定学生への学士力確認試験の実施の可能性について検討を行う。 ○学生支援について 自律的学習を促すための自主学習室やアカデミックアドバイザーアシスタント(AAA)制度を継続し、学習環境の充実を図る。 2年次終了時および卒業生の内の優秀者に対して学部長賞を授与する。 ○国際共同による教育の状況について SGUの計画推進のために理学部に割り当てられた外国人留学生の受け入れ目標数、および日本人学生の海外への派遣目標数を実現するための制度について検討を行い実施する。</p>	<p>○学部教育への功績、および海外の大学・研究所との交流を通じて岡山大学理学部の教育・広報に功績があった教員3名に理学部教育貢献賞を授与し表彰を行った。 またピアレビュー(学科によってはこの代替として副担任制)を今年も実施し、質の高い教育の維持に努めた。 ○引き続きフロンティアサイエンティスト特別コースの学生を選抜し、学年の早い時期から最先端の研究に触れる機会を多く与えた。 ○第3年次編入学試験の広報のために高専訪問を行った。また、入試広報のためにオープンキャンパスを実施した他に、入試説明会等に参加した。さらに、ホームカミングデイにおいて講演会及び懇談会を実施した。 ○本年度もSelf Learning SquareとAcademic Adviser Roomを運営し、学生の自主学習を促すとともに学習環境の充実を図った。また、AAAの院生に自主ゼミを企画させ、学部生と院生との距離を縮めることを継続的に図っている。 ○教科書、参考書を電子教材として学生に提供するために電子書籍を昨年度から導入し、授業におけるその活用を促している。 ○本年度は2年時終了生15名と卒業生5名に学業優秀者として学部長賞を授与し表彰を行った。 ○H28年度には、化学科における台湾大学との共同国際ワークショップを中心に海外派遣学生は19名を数えた。また、外国人短期研修生を含めて外国人の受け入れは24名であった。割り当てられた目標数を達成していると考ええる。 ○卒業予定学生に対する学士力確認試験の導入には色々問題があるが引き続きその可能性を検討していきたい。</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	①-2 大学全体への貢献
前期日程試験の志願倍率を2.5倍に引き上げる。(H27年度は2.1倍)	理学部化学科で行なっている台湾大学との共同国際ワークショップは、学生の海外派遣や外国人短期研修生の受け入れの模範としてタスクフォース等でその拡充が検討されている。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
前期日程試験の志願倍率を2.5倍に引き上げる。(H27年度は2.1倍)	本年度の前期日程試験の理学部志願倍率は1.7倍であった。大学全体で志願倍率が下がっている傾向にはあるが、理学部の倍率についても下がった背景について分析を行い、より多くの受験生を獲得するための施策を考える必要がある。
②研究領域	自己評価
②-1 目標	②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>○研究水準及び研究成果等について すでに高評価を得ている研究を継続的に発展させるために支援をする。 また発展が期待される基礎研究および新分野の創成を目指す研究を推進・支援する。 さらに研究成果の公表をウェブ等を通じて継続して行う。 ○研究実施体制等の整備について 現在行われている優れた研究を継続的に発展させるために理学部研究推進経費の配分を行う。 科研費申請状況を把握し、未申請者に対して申請の依頼・支援を行う。 ○国際共同による研究の状況について 国際共同研究を促進するために、教員の海外派遣を推奨する。 ○女性・外国人研究者の受入状況について 女性教員および外国人教員の採用を促進する。</p>	<p>○現在行われている優れた研究を継続的に発展させるために理学部研究推進経費の配分を行った。科研費申請で審査結果が不採択であったものの、その結果がA評価であった者7名を対象としてそれぞれ40万円の研究費支援を行った。また、科研費を代表者として申請した者を対象に、物品等購入のための補助金として200万円を上限として支給した(1件)。 ○研究成果は継続的にウェブ等を通じて公表している。 http://www.science.okayama-u.ac.jp/research/index.html ○理学部教員全員に科研費申請を行うように要請を行った。 ○理学系会議において女性と外国人の雇用を促したが、本年度についてはまだ採用に至っていない。</p>
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	②-2 大学全体への貢献
科研費申請が可能な教員全員が申請を行うことを目指す。	多くの新たな研究成果を世に発信し研究大学としての岡山大学の名を高めることに貢献した。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
科研費申請が可能な教員全員が申請を行うことを目指す。	平成29年度科研費申請は、申請可能な教員のほぼ全員が申請を行った。

③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標 ○地域社会との連携、社会貢献について 公開講座・出前授業・研究室公開などを積極的に行い、地域貢献と科学普及に貢献する。 ○国際交流・協力について 国際交流(国際ワークショップ、エラスムスムドス)や協定締結を前提とした招聘などに対する支援を実施する。	③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 ○H28年度については公開講座・出前授業等への講師派遣は12件、高専訪問は6件、理学部への高校生受け入れは12件であった。 ○海外の研究者との共同研究を推進している。現在、外国籍の教員6名、女性教員7名が在籍している。 ○岡山県教育委員会理科部会、同数学会などの行事に積極的に関与し、理学分野において県下の高校との連携を深めた。また、スーパーサイエンスハイスクールにおける研究指導や運営にも参画し、高校生の理科と数学への関心を高めることに協力した。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 高大連携事業や地域の科学普及活動などを年にのべ30件以上実施する。	③-2 大学全体への貢献 地域の科学普及を通して岡山大学の広報にも貢献したと考える。
	③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
	今年度は公開講座講師派遣・高専訪問および高校生受け入れをあわせて30件となり、目標を達成している。今後も優秀な学生の確保及び地域の科学普及のために積極的に活動を続けていきたい。
【総括記述欄】	
今年度については、異分野基礎科学研究所の設立にともなう理学部の教員体制の改編および整備を中心に学部運営を行ってきた。学部教育および大学院教育に関しては、今後も理学部を中心に異分野基礎科学研究所の協力を得ながら行っていく体制を維持し更なる充実を図ってきたい。また本来の理学部の強みである研究面においても、理学部と異分野基礎科学研究所との協力関係の下で行う研究をさらに発展させるとともに、理学部独自の研究については支援を強化していきたい。	